

「県立移管 120 周年を迎えて」



鹿山会会長 栗生雄四郎

会員の皆様には、日頃より鹿山会の運営に多大なるご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

また、この度の台風 15 号、19 号により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

本年は母校が明治 32 年(1899)に「千葉県佐倉中学校」として県立に移管して 120 周年の記念すべき年にあたります。

このため、昨年 10 月から会員の皆様をはじめ各方面に対して、県立移管 120 周年記念事業実施資金の募金をお願いしたところ、お陰様で目標金額 1000 万円を上回るご寄付をいただきました。ここに鹿山会を代表して感謝の意を表する次第でございます。



文藝春秋 2019.6 月号

現在、学校・PTA・鹿山会からなる実行委員会で、11 月 9 日に実施する記念式典、記念講演会の準備をするとともに記念誌の編纂作業も順調に進んでおります。また、同日夕刻には、鹿山会主催の祝賀会を開催いたしますが、その準備も進めております。

さて、県立移管 120 年の歴史を振り返ってみますと、決して平坦な道のりばかりではありませんでした。県立移管直後、千葉県財政が厳しいため母校が廃校の危機に直面した折、堀田正倫伯爵は私財を投じて維持に努めたほか、明治 43 年(1910)新校地購入費と新校舎(現在の記念館など)新築費などを寄付されたのであります。

佐倉藩校創設以来の教育に熱心な歴代藩主に想いを馳せながら、記念事業を通して藩校の歴史や将来への夢を生徒にしっかり伝えるとともに、鹿山会としては実行委員会を力強く支援してまいります。

最後に会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し挨拶といたします。